



ホタルのふるさと 横浜瀬上沢

特定非営利活動法人
ホタルのふるさと瀬上沢基金
会報 No.4
2011.6.1

〒234-0054 横浜市港南区港南台 9-30-31
Tel090-6191-1861 / Fax 045-832-9167
E-mail segamikikin@gmail.com
ホームページ <http://www.segamikikin.org/>
県認証番号：N 協第 1083 号
法人登録番号：0200-05-006727

“思いは見えないけれど、思いやりは見える”

理事長 角田東一

瀬上沢を含む円海山域で記録された昆虫は 4,500 種、潜在的には 6,000 種が生息しているであろう事を、先の昆虫展で知らされました。生物多様性に富んだ円海山域の自然は、私たち人類に不可欠な要素を何億年もの間育んで来ました。しかし今、自然をこれ以上破壊すれば、私たちの子孫に重大な影響を及ぼす段階にまで来てしまいました。

瀬上沢の開発計画は着々と進行しており、早ければ今年度中にも申請される恐れがあります。現在約 1,000 人が土地取得資金寄付や会員活動で、全面保全への強い意志を示していますが、開発を阻止するにはこの数では足りません。

“自然を守りたい”と、ほとんどの人が思っています。しかし“思い”だけでは見えません。瀬上沢基金への寄付や会員になる事によって“思いを見る形に”して下さい。1 万人集まれば、確実に瀬上沢の自然を後世に残すことが出来るのです。

今も尚不自由な生活を強いられている大震災被災者の皆様に、心からお見舞い申上げます。なお、当基金主催で 3 月 29 日から開催された「円海山域の昆虫展と講演」の収益の中から、20%を被災者の皆様に寄付させて頂きました。



平成 23 年 3 月 29 日～4 月 4 日



円海山域の 昆虫展と講演 を開催しました



* 主 催: NPO 法人 ホタルのふるさと瀬上沢基金
共 催: 瀬上沢文化遺産研究会 (SBK)

* 後 援: 神奈川県 神奈川県立横浜栄高等学校 横浜市環境創造局 横浜市栄区
神奈川県自然保護協会 朝日新聞横浜総局 每日新聞社横浜支局 読売新聞東京本
社横浜支局 産経新聞社横浜総局 東京新聞横浜支局 神奈川新聞社 タウンニュース
タウン新聞社 JCN 横浜 FM ヨコハマ 神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会
NHK 横浜放送局 TVK

* 協 力: パタゴニア(ベイサイドアウトレット／横浜・関内／鎌倉)

昆虫標本 126 箱、約 1,700 種、10,000 頭以上が展示されました

期間中の、総入場者数は 1,267 名、講演会入場者は 259 名、報道取材 3 社 4 回、新聞報道 4 回、TV 放映 2 回、瀬上沢を守る基金への寄付 70,861 円、資料売上 84,250 円となりました。 なお資料売上から 16,500 円を東日本大震災救援金として神奈川新聞社に寄託致しました。

私と昆虫展

見学のノートより



こんなに沢山の昆虫が近くの山にいるなんてびっくりしました。同時に今回の津波は人間だけでなく沢山の生き物が犠牲になったのではと心が痛みます。Y.N

自分の身近にこんなに多くの種類の虫がいるとは!!とおどろきました。開発され便利になるのは良いけれど身近にあるものを大切にしたいと改めて思いました。H

子供が生物を好きで、舞岡公園や瀬上に行きますが、こんなに沢山の生物を見つけることが出来ていませんでした。今回勉強させてもらったことを活かして、もっとよく周りを見ながら次回いきたいと思います。楽しみが増えました。

見事な標本と写真に改めて敬意を表します。N

大はオニヤンマから小は 1mm 以下の昆虫まで円海山域でこんなに生きているのは驚きです。自然環境を保全する大切さが痛感されました。T.H

かぶとわなぜ 2 つつのがあるの?
虫の名まえにはいみがあるのかなあ?

昆虫のお話とても面白く、これから山に行くのが楽しくなります。円海山の奥深さを知らされました。I

知らない虫などがすごくたくさんあってとてもびっくりしました。特にバッタなどいろいろくわしくかいていてすごいと思いました。M.S

ぼくはマドホソアリノスアブを見てすごいと思いました。理由は希少種という言葉にひかれたからです。



阿部 佳雄（監事 横浜市港南区）

戦後の食べるものにもこと欠く日々を京都の東山連峰を駆け回って育ちました。港南台に移住して 30 年になります、瀬上沢一帯から、今以上に森林緑地なくなることは、耐えられません。地主とはいえ里山の自然を破壊する権利があるのでしょうか。人類のみならず多種多様な生物の繁栄を支えることが求められている時代です。体力の続く限り楽しんで皆さんの仲間で居たいと思っています。



「ビオトープ」の効用？

「円海山域の昆虫展と講演」が開かれた。30年の昆虫採集の結果の3分の1、1500種が展示された。あの山域で、それほど多種類の昆虫がいたのだ。今はその20%が絶滅したという。展示には、円海山域の地図があった。それを見ると如何に多くの緑地が失われたかが良くわかる。中でも横・横高速道路、金沢動物園が緑地の真ん中を切りさいている。大岡川の源流の一つを遮断し、遊水地を設け、湧き出る多量の水の流れを暗渠にし、その上に小川アメニティーをつくり、蛍を生息させて良しとしている。最近は、新たな道路工事に邪魔なひょうたん池をつぶすため、上流に希少種の植物を移植し、保全できるとしている。いわゆるビオトープだ。

一方、三浦の「北川湿地」は、希少種が

副理事長 寺本 浩

多く生息するといわれていたが、開発がすすめられた。開発業者は、生態系の保全法を「専門家の指示で決めてる」として、一部の生物を近隣のビオトープに移植して、保全するとしている。ここでもビオトープが切り札だ。

そもそも、どの生物も、それぞれに適した固有の環境があるから生きられるのではないか。人間が勝手に判断してつくった環境で生きられるものではなかろうに。広大な緑地が失われれば、多様な生物も失われる。ビオトープで保全できるのはほんの一部だ。生物多様性を保証するのは、今ある自然・緑地だし、コンクリートを土に戻すことだ。ビオトープを緑地開発の免罪符にしてはならない。



久保浩一先生の昆虫展記念冊子を読んで

30年にわたる円海山域の昆虫調査の歩み、そこから見えてくる環境の変化と生物多様性への考察の中に、現場を知る者のゆるぎない自然への愛情が感じられます。共感することの多い先生の冊子より、心に残ったところの一部をご紹介させていただきます。

かつての円海山域は名実ともに『昆虫の宝庫』だったこと。開発の波に生態系は変質していること。そして、食物連鎖のピラミッドの底辺に位置する昆虫はその変化をいちの一番に受けるのだが、その変化に気づく人は少なく、調査の記録も残っていないものも多くあること。

先生は、今回の昆虫展は30年にも及ぶ調査で得られた都市近郊緑地の豊かで多彩な昆虫相が形成されている証明であり、生物多様性の実感する一方で、新たな開発で失われることのないように願うばかりだと書かれています。また、人気のある一部の昆虫だけではなく、生態系としてすべての生物が大切だと捉える姿勢こそが環境を保全する第一歩であり、一方で、

副理事長 藤田みちる

人が築き上げた里山の環境維持には多くの人手が必要であること。そして、子どもの頃に自然の中で泥んこになった経験は懐かしい思い出だけではなく、情操教育にも結び付くものであること。生命の尊厳や大切にする心も、実際に生き物と関わる中で形成していく。・・・その通りだと思います。自然のルールを知り、泥んこになれる環境をつくっていくために、多くの方々が参加していくことが必要ですね。そのためには基金も活動しているのですが・・・

そして、久保先生のおっしゃるように、環境省の『里地里山保全・活用会議』等の取り組みや横浜市の生物多様性行動実践都市への取り組みが進行中の今こそ、横浜市もリーダーシップを発揮して、環境関係の拠点つくり（大規模な施設ではない自然史系博物館）や市民団体への支援をしていってほしいものです。

林文子 横浜市長と面談

(平成23年2月8日)



短い時間でしたが、市長を訪問する機会を得て当基金の理事、幹事8名で面談しました。当基金の目的と活動を紹介した後、改めて次の三項目を要望しました。

1：瀬上沢の地権者に緑地指定、土地取得の働きかけを積極的に行って下さい

2：舞上線・上郷地区は、西側の生物多様性復活のためバイアダクト方式にして下さい

3：いたち川の直線化工事が進行していますが、自然の蛇行を元のまま残して下さい

市長からは、当基金の活動と自然の大切さへの理解あるコメントをいただきました。



瀬上沢基金のステッカー

『瀬上沢ステッカーキャンペーン』は、多くの方に瀬上沢を知って頂くために、市民への呼びかけツールとして、パタゴニア日本支社が瀬上沢緑地のステッカーデザインを作成し、活動団体が販売するというものです。

各活動団体で販売しており、玄関先に貼っているお宅も見受けられます。

当基金では100円以上のカンパをいただいた方に差し上げています。



イベント お知らせ

● 瀬上沢文化遺産研究会

ガイドツアー&クリーンアップ

それぞれ第二日曜日(奇数月/偶数月)

横浜栄高校正門前集合

午前10時～



総会開催 お知らせ

6月25日(土) 15時15分
～18時30分

港南台地区センター

講演 顧問 新堀豊彦氏



ご一緒に、瀬上沢の保全活動に取り組みましょう！

寄付でのご支援もお願いしております。

会費とご寄付は、瀬上沢地区の緑地の取得と保全及び当基金の活動の大切な資金となります。

***よこはま夢ファンド**(市民活動推進基金)を活用したご支援も可能です。

会員・寄付の状況

(平成23年5月末現在)

個人正会員 72名 法人正会員 1名

個人賛助会員 127名 法人賛助会員 2名

JF会員 7名

寄付者 延べ 724名

寄付金額累計 350万円



編集後記

東日本大震災で被災された皆さんに、お見舞い申し上げます。

当基金でも神奈川新聞社厚生部に救援金を届けました。自然の脅威を感じると共に日ごろの備えを再確認することとなりました。自然に逆らった開発はダメと自然からのメッセージかもしれません。 M.F



- 8月18日 都多摩事務所訪問 図師・小野路歴環組合の随意契約内容打合せ 4名参加
- 8月30日 町田市役所訪問 「農地環境モデル再生事業報告」打合せ 4名参加
- 9月 5日 会報3号発送
- 9月 6日 山田副市長と面談 7名参加 基金の現状説明と川窪の自然蛇行復元、舞上線のバイアダクト化要望
- 9月12日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 21名参加、(SBK 主催に協賛)
サブテーマ:地元長老が再び語る
- 9月18日 港南台駅頭にてチラシ「瀬上沢の開発は今も進行中」を配布
- 9月21日 基金 PR 用ステッカー“Live Green”完成。
- 9月24日 パタゴニアベイサイド店 VYC プレゼンテーション実施。

9月25日～26日、横浜栄高校文化祭にパネル20枚と
縄文土器など出展。来場者330名



- 10月 16日 港南台駅頭にてチラシ「瀬上沢の開発は今も進行中」を配布。
- 10月 17日 パタゴニアベイサイド店にて、グラスルーツ実施。
- 10月 29日 栄区役所を訪問。昆虫展への協賛依頼。
- 11月 4日 横浜栄高校地域掃除活動に参加



- 11月 6日 栄区主催の「栄祭り」でチラシ配布
- 11月 8日 市環境創造局、道路局、河川部と打ち合わせ
- 11月 8日 県環境農政局へ昆虫展の協賛依頼に訪問
- 11月14日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 15名参加
(SBK 主催に協賛)



- 11月 17日 栄区光田区長と昆虫展などについて懇談
- 11月 19日 パタゴニアベイサイド「VYC 発表会と交流会」に参加
- 11月 20日 港南台駅頭にてチラシ「瀬上沢の開発は今も進行中」を配布
- 11月 27日 パタゴニア鎌倉店にてグラスルーツ実施
- 12月 4日 生物多様性フォーラム(浦和)に 2名参加
- 12月12日 「瀬上沢クリーンアップ作戦」実施 21名参加、
軽トラ 3台分のゴミ収集(SBK 主催に協賛)



- 12月18日 港南台駅頭にてチラシ「瀬上沢の開発は今も進行中」を配布
- 平成 23 年**

- 1月9日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 30名参加(SBK 主催に協賛)
- 1月9日 港南台駅頭にてチラシ「瀬上沢の開発は今も進行中」を配布

- 2月8日 市長と面談 8名参加。瀬上沢の全面保全、西の森のバイアダクト化といち川の蛇行復元で生物多様性への配慮を要望
- 2月13日 「瀬上沢クリーンアップ作戦」実施 30名参加
軽トラ1台分のゴミ収集、(SBK主催に協賛)



- 2月19日 港南台駅頭にてチラシ「円海山域の昆虫展と講演」を配布
- 3月9日 朝日新聞折込み紙「定年時代」取材 瀬上沢案内
- 3月13日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 8名参加(SBK主催に協賛)
- 3月29日～4月4日 「円海山域の昆虫と講演」開催、栄区民文化センターりりす

来場者 1267名 講演入場者 259名



- 4月9日 「瀬上沢クリーンアップ作戦」実施 20名参加
- 4月16日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 29名参加(SBK主催に協賛)
- 5月8日 「瀬上沢ガイドツアー」実施 29名参加(SBK主催に協賛)

